

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	詩歌句について : 選後評
Author(s)	上田, 英夫
Citation	龍南, 232: 119-119
Issue date	1935-12-15
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7298
Right	

むに退である。切れば血がどくどく流れるやうな生きた描寫は出來ぬものか。

「爲爺さんと私」最初たどくしく終に至つて稍もち直してゐる。材料の取捨選擇に今一段の工風を要する。

「曙光會實記」文字通り實記であつて創作ではないがそれはそれとして面白く書けてゐる。

「司令官の娘」一應まとまつてゐるが單純で表面的で甘つたる過ぎる。地の文と會話の文との關係をもつと考慮する必要がある。

詩 歌句について

教授 上田英夫

波止場のノスタルヂア

評。まづ結構

こほろぎ

評。そこはかとなき作者の純性が感じられるやうだ。

山のスケッチ

評。作者のねらつた心境は分るが今少しすつきり表はせた

らと思ふ。

詩 詠

評。中々よくこなされてゐる、但し露骨な啄木の眞似はど
うかと思ふ。

雑 詠

評。總じてまだ幼稚だが、感性が可成豊かであるから、か
ういふ人はまだよくなつて行く筈だ。

田舎に在りし頃

評。中々手馴れた詠風。今のうちは無論自由律などよりか
この定形短風の方がこなされてゐる。

雑 吟

評。百舌鳥の句のやうな自然さが一体にある。

西戸崎にて

評。掴みどころはこれといふが手法に今一段の工夫を願ひ

たい。

夏の霧島

評。いつかのやうな佳句が見られないのは残念だが併しや
はり相當よく掴んで居る。

雑 吟

評。心持に新味はないが表現はまづ無難。